

「中央防災会議」への申し入れ



9月4日、訪日団は内閣府を訪れ、中央防災会議への申し入れ（以下の陳情書）を行った。しかし、中央防災会議（黒田、佐谷参事官）の対応は、「自然災害以外は預かり知らない」の一点張りで、中央防災会議のホームページでも関東大震災時の朝鮮人、中国人虐殺は取り上げられているではないか、あるいは、それには戒厳令下の軍隊、警察が関わっているのに政府責任はないのか、等の質問には、いっさい「預かり知らない」の一点張りであった。

訪日団はなお誠実な対応を求めた。

また、日本国政府・安倍総理大臣に対して、2014年の請願書に対する回答をもとめる催促書を提出した。

中央防災会議 会長 内閣総理大臣 安倍晋三 先生
副会長 内閣府特命担当大臣(防災担当) 小此木八郎 先生

陳情書

私達は94年前の関東大震災の際に、不条理な死を強いられた中国人被害者の遺族です。私達はこの度、父祖の霊を慰める為に日本にやって参りました、私達は二度とこのような不幸な歴史が繰り返されてはならないと強く願っております。

日本の歴史において少なからずの大地震が発生していますが、マグニチュード7.9クラスであった関東大震災は死亡者が最も多い地震であったと言えます。各地が被災すると共に、一部の民族排外主義に煽られた暴徒が関東地区において大震災による混乱に乗じて、故意に事を起こし、軍、警察の庇護と許容の下、関東一帯に居住する無辜の中国労働者に対し意図的な虐殺を行いました。750人余の中国労働者が被害に遭いました。この他にも、6000余人の朝鮮人が軍警と暴徒によって虐殺されました。中国の歴史では「東瀛惨案」（トンインザンアン）と称されます。

彼らは天災こそ凌げたのですが、人災に遭ったのです。今回、曾祖父や祖父が虐殺された地を訪れました。そして当時の状況、時間、場所、殺害に使われた凶器の種類、当時身につけていた物などの詳細を知ることができました。私たちの心にその時の情景がはっきりと浮かび上がり、震撼しました。94年という時間が経過したとは言え、親族として彼の苦痛、恐怖、絶望の幾分かを体感することができます。その実、これはただ温州や処州だけの痛みではなく、中華民族の痛みでもあります。

私たちがこの間の歴史を顧みるのは、怨みの為ではなく歴史の実相をあきらかにすることによって、この歴史から教訓を得て、二度とこうした過ちを起こさせない為です。

1923年9月1日の関東大震災によって「東瀛惨案」が引き起こされたのは、当時の政府が社会秩序をしっかりと維持できなかったことによって生じたものです。貴会議の職務の一つは、天災が起こったときに緊急処置の計画を策定し、それを施行することにあります。私たち「東瀛惨案」で受難した中国人労働者の遺族として、特に貴会が「東瀛惨案」の史実を詳細に理解し、「東瀛惨案」から教訓をくみ取って、天災が発生した時、人災を発生させない為の教材の一つにして頂きたいと切に願っております。天災に人為は及びません、できるのは被害を最小限に止めることです。しかし、人災の発生は防止できます。もし過去の歴史から教訓をくみ取ろうとしないならば、必ずや同じ轍を踏むこととなります。私たちはあなた方が保管記録している「東瀛惨案」に関する全ての資料を公開していただくよう希望します。また、私たちは貴会議が「大震災記念日」の日に、中国人、朝鮮人のための「追悼会」に代表を派遣して毎年欠かさず参列されると共に、歴史の教訓をくみ取るご発言をして頂くようお願いいたします。

2017年9月4日

1923年関東大地震下で虐殺された中国人受難者遺族联合会

日本国政府
内閣総理大臣 安倍晋三先生

催促書

2014年9月8日、私たち、1923年関東大地震下で虐殺された中国受難者遺族は貴国政府に対し請願書を提出しました。その中で、受難した中国労働者700余りの遺族の要求と願いを表明しました。あれから既に4年の月日が経過しました。憤慨すべきことに、今日に至るも貴政府からの真摯で明確な回答を得ていません。

本年5月、私たちは中国温州大学において「温州市歴史学会東瀛惨案史研究センター」を立ち上げると共に“授牌式”を行いました。それは700余の受難華工遺族を代表すると同時に、中国社会における正義を愛護する声に応えるものでもあります。

ここに、私たちは再度、4項目の訴えに対し、日本政府が速やかに、正式かつ明確な回答を行うよう促すものです。

1. 日本内閣政府は国家としての責任を負い、この歴史事実を認め、1923年関東大震災時に虐殺された旅日中国人労働者商人、及び、その遺族に対して謝罪すること。
2. 1924年に行われた日本政府の内閣決定の賠償方針を現行の国際慣例と物価水準に照らし、受難者数の修正を行った上で賠償を実施すること。
3. 歴史を鑑とし、次の世代にこの歴史事実を伝える為に、受難の地に記念碑を建立すると共に、中国人・朝鮮人の虐殺を伝える歴史記念館を建設すること。
4. 日本の歴史教科書にこのことを記載し、日本の若い世代にこの歴史を知らしめ、その中から教訓を得られるようにすること。

この「日本での虐殺」という事実は眼前にあります。これによって生じた負の影響は700余の受難中国人労働者の遺族と社会の国と民族を愛する人々の心の中に留まり続けています。私たちは解決を待ち望み、社会が解決を待ち望み、正義が解決を待ち望んでいます！回避と遅延は物事を解決する方法ではありません。正にその逆で、事態をより複雑にし、矛盾をより激化させます！中国政府も何度となく日本側に対し、歴史を正視し、誠実に政治的、道義的責任を負い、歴史の遺留問題を適切に処理するよう呼びかけています。

94年前、私たちの先輩700余の尊い生命が無辜にして意図的に虐殺されました。心に閉ざした良心を呼び覚ましてください！私たちは再度日本政府に対し速やかに、正式かつ明確な回答をするよう促すものです！

2017年9月4日

1923年関東大地震下で虐殺された中国人受難者遺族联合会